VR 3D·CG FEM CAD Cloud UC-1 series UC-win series Suite series

# UC-Drawツールズ Earth retaining (土留め工)

Operation Guidance 操作ガイダンス





# 本書のご使用にあたって

本操作ガイダンスは、主に初めて本製品を利用する方を対象に操作の流れに沿って、操作、入力、処理方法を説明したものです。

### ご利用にあたって

ご使用製品のバージョンは、製品「ヘルプ」のバージョン情報よりご確認下さい。 本書は、表紙に掲載のバージョンにより、ご説明しています。 最新バージョンでない場合もございます。ご了承下さい。

本製品及び本書のご使用による貴社の金銭上の損害及び逸失利益または、第三者からのいかなる請求についても、弊社は、その責任を一切負いませんので、あらかじめご了承下さい。 製品のご使用については、「使用権許諾契約書」が設けられています。

※掲載されている各社名、各社製品名は一般に各社の登録商標または商標です。

©2024 FORUM8 Co., Ltd. All rights reserved.

目次

5	第1章 製品概要				
5	1 プログラム概要				
5	1-1 機能と特長				
6	1-2 土留め工の形状				
7	1-3 土留め壁の種類				
8	1-4 支保工の形式				
12	2 フローチャート				
13	第2章 操作ガイダンス				
13	1 基本情報入力				
14	2 条件設定				
14	2-1 図面生成条件				
14	2-2 図面作図条件				
15	3 形状情報入力				
15	3-1 壁体側面				
16	3-2 支保工平面				
19	3-3 支保工側面				
20	4 使用部材				
20	4-1 壁体				
22	4-2 腹起し				
23	4-3 切ばり				
23	4-4 切ばり火打ち				
24	4-5 隅火打ち				
25	4-6 火打ちピース				
25	4-7 中間杭				
26	5 設計条件表				
27	6 数量計算				
27	6-1 条件				
28	6-2 計算書作成(PPF)				
29	6-3 計算書作成(ODF)				
30	7 図面生成				
30	7-1 図面表示				
31	7-2 図面編集				
36	7-3 図面出力				
39	8 ファイル保存				

# 40 第3章 Q&A

40 1 UC-Drawツールズ「共通」

# 第1章 製品概要

# 1 プログラム概要

# 1-1 機能と特長

「UC-Drawツールズ(Earth retaining)」は、土留め工の図面を一括自動生成するためのプログラムで、以下の特長を備えています。

### ◆スピーディな図面作成

土留め工の種類や寸法などを入力することにより内部的に作図データを一括生成するため、短時間に目的とする土留め工の 図面が得られます。

### ◆数量計算作業の解消

入力された形状情報や部材情報を基に数量計算書を作成できますので部材数量の計算作業を解消します。

### ◆柱状図や設計条件表の作図

土留め工自体(土留め壁や支保工)の作図の他に、柱状図や設計条件表の作図も行えます。

### ◆細かな作図書式に対応

作図条件で寸法線や引出線・文字・表などの作図書式の細かな設定が行えます。各図形はその設定に基づいて生成されますのできめ細かな図形生成が行えます。

### ◆各種基準類に沿った図面作成

以下の基準類に準拠した図面作成が行えます。

- ・CAD製図基準(案)国土交通省平成15年7月版
- ・CADによる図面作成要領(案)日本道路公団平成13年10月版

### ◆生成図面の確認・編集・印刷

生成した図面の確認表示や図形・寸法線・引出線などの編集(位置調整)、プリンタ・プロッタへの印刷が行えます。

### ◆様々な形式の図面ファイル出力に対応

弊社の製品である「UC-Draw」のオリジナル形式のファイル(PSX)の他に、「SXF」・「DXF」・「DWG」・「JWW」・ 「JWC」形式のファイル出力が行えます。

# 1-2 土留め工の形状

本プログラムでは、以下の形状の土留め工の作図が行えます。

### ◆平面形状

平面形状として「矩形(4壁)」・「直線の任意区間(1壁)」の作図が行えます。

①矩形



②直線



【メモ】

※支保工形式が「アンカー支保工」、または、「切ばり+アンカー併用工」式の場合、直線のみ作図可能となります。 ※支保工形式が「控え杭タイロッド式」の場合、「直線の任意区間(右壁)」のみ作図可能となります。

### ◆側面形状

平面形状が「矩形」の場合、各壁ごとに「壁体天端位置」および「壁長」を変えての作図が行えます。



【メモ】

※壁体の途中で断面が変化する土留め壁の作図は行えません。



※土留め壁が「鋼管矢板・SMW壁(柱列壁)」の場合、各壁ごとに異なる鋼材(ソイルセメント柱径)は指定できません。4壁全 て同じとなります。

# 1-3 土留め壁の種類

本プログラムでは、以下の土留め壁の作図が行えます。

### 1)親杭横矢板

【構成部材】・・・親杭、土留板

### 2)鋼矢板

【構成部材】・・・鋼矢板

### 3)軽量鋼矢板

【構成部材】・・・軽量鋼矢板

### 4)コンクリート矢板

【構成部材】・・・コンクリート矢板

### 5)鋼管矢板

【構成部材】・・・鋼管、継手管

### 6)SMW壁

【構成部材】・・・ソイルセメント柱、芯材

### 7)地中連続壁

【構成部材】・・・コンクリート壁、主鉄筋(縦方向鉄筋)、配力筋(横方向鉄筋)、組立筋

# 【×モ】

※「親杭」・「芯材」には、『H形鋼』のみを使用します。

※「土留板」には、『木材板』または『軽量鋼矢板』が指定できます。

※「鋼矢板」には、『普通鋼矢板(U型)』または『ハット形鋼矢板』のみを使用します。

※「鋼管矢板」の継ぎ手には、『P-P型』のみを使用します。

※「SMW壁」に腹起しが設置される場合は、内面部分のはつり落としを考慮して作図します。

※「SMW壁」のコーナーには必ず「芯材」を配置し、回転した状態で作図します。

※「地中連続壁」のエレメント間は、『フリー継ぎ手』として作図します。

### 1-4 支保工の形式

本プログラムでは、以下の支保工の作図が行えます。

### ◆支保工の形式

以下の形式の支保工の作図が行えます。

1)切ばり支保工

【構成部材】

腹起し、切ばり、切ばり火打ち、隅火打ち、腹起しブラケット、切ばりブラケット、火打ちピース、隅角部ピース、中間杭

2)アンカー支保工

【構成部材】

アンカー腹起し、アンカー腹起しブラケット、アンカー、台座

3)切ばり+アンカー併用工

【構成部材】

アンカー腹起し、アンカー腹起しブラケット、アンカー、台座、腹起し、切ばり、切ばり火打ち、腹起しブラケット、火打ち ピース

4) 控え杭タイロッド式工

【構成部材】

控え杭(鋼矢板、鋼管矢板、H鋼杭、鋼管杭)、タイロッド腹起し、タイロッド

【メモ】

※上記以外に「自立式(支保工なし)」の作図も行えます。

※「アンカー腹起し」・「腹起し」・「切ばり」・「火打ち」には、『H形鋼』のみを使用します。

※「タイロッド腹起し」は、『溝形鋼』または『H形鋼』から選択できます。

※「切ばり」・「アンカー」の平面配置本数は、『最大50本』までです。

※「切ばり支保工」および「切ばり+アンカー併用工」の場合、切ばり支保工段の「腹起し」は、

多重配置(横並びの複数鋼材配置:『最大3重』まで)が行えます。



※「切ばり支保工」および「切ばり+アンカー併用工」の場合、切ばり支保工段の「腹起し」・「切ばり」・「切ばり火打ち」・ 「隅火打ち」は、多段配置(縦並びの複数鋼材配置:『最大3段』まで)が行えます。



※「切ばり支保工」および「切ばり+アンカー併用工」の場合、切ばり支保工段の「切ばり火打ち」・「隅火打ち」は多重配置 (横並びの複数鋼材配置:『最大5重』まで)が行えます。但し、「腹起し」・「切ばり」の多重配置は行えません。

Κ	$\square$
⋗	

※ツリービューの「基本情報」の「形状」が『直線の任意区間』の場合、「隅火打ち」・「切ばりブラケット」・「隅角部ピース」・「中間杭」の作図は行えません。

※ツリービューの「基本情報」の「形状」が『矩形』で『片方向の切ばりしか配置されていない(左右方向切ばりと前後方向 切ばりのどちらかの「本数」に『0本』が指定された)』場合、「切ばりブラケット」・「中間杭」の作図は行えません。

### ◆支保工の段数

作図可能な支保工段数は、「切ばり支保工」、「アンカー支保工」および「切ばり+アンカー併用工」ともに『最大20段』までです。

### ◆切ばり支保工段の仕様

①腹起し

【鋼材種類】・・・各段の「左右壁」・「前後壁」ごとに指定可能 【鋼材段数】・・・各段の「左右壁」・「前後壁」ごとに指定可能 【間隔保持材高】・・・多段の全腹起しで共通

### ②切ばり

【鋼材種類】・・・各段の「左右壁」・「前後壁」ごとに指定可能 【鋼材段数】・・・各段の「左右壁」・「前後壁」ごとに指定可能 【平面配置】・・・全段共通

### 【メモ】

※鋼材段数は、切ばりが設置される腹起しの段数以下しか指定できません。 ※多段の場合の腹起しと切ばりの配置関係については、「多段時の腹起し・切ばり・火打ちの配置方法」を参照してください。

③切ばり火打ち

【鋼材種類】・・・各段の「左右壁」・「前後壁」ごとに指定可能 【鋼材段数】・・・各段の「左右壁」・「前後壁」ごとに指定可能 【鋼材重数】・・・各段の各切ばりごとに指定可能(但し、切ばりの両端に配置) 【多重時の配置スパン】・・・「左右壁」・「前後壁」ごとに指定可能(但し、全段共通) 【多重時の各鋼材長】・・・「左右壁」・「前後壁」ごとに指定可能(但し、全段共通) 【取り付け角度】・・・全切ばり火打ちで共通(30°または45°)

【メモ】

※鋼材段数は、切ばり火打ちが設置される切ばりの段数以下しか指定できません。 ※多段の場合の切ばりと切ばり火打ちの配置関係については、「多段時の腹起し・切ばり・火打ちの配置方法」を参照してく ださい。 ④隅火打ち

【鋼材種類】・・・各段ごとに指定可能 【鋼材段数】・・・各段ごとに指定可能 【鋼材重数】・・・各段の4隅ごとに指定可能 【多重時の配置スパン】・・・全段4隅で共通 【多重時の各鋼材長】・・・全段4隅で共通 【取り付け角度】・・・全隅火打ちで共通(45°固定)

【メモ】

※鋼材段数は、隅火打ちが設置される腹起しの段数以下しか指定できません。 ※多段の場合の腹起しと隅火打ちの配置関係については多段時の腹起し・切ばり・火打ちの配置方法を参照してください。

⑤腹起しブラケット・切ばりブラケット 【鋼材種類】・・・各段の「左右壁」・「前後壁」ごとに指定可能

【メモ】

※「腹起しブラケット・切ばりブラケット」には、『組立ブラケット』または『H形鋼ブラケット』が指定できます。

### ⑥火打ちピース

【鋼材種類】・・・各段の「隅」・「左右壁」・「前後壁」ごとに指定可能

⑦隅角部ピース

【鋼材種類】・・・全段共通

⑧中間杭

- 【鋼材種類】・・・全杭共通
- 【平面配置】・・・切ばりの交差ごとに配置有無の指定が可能

【メモ】

※中間杭の杭長は、すべて共通として作図します。 ※切ばりの交差に対する位置(象限や離れ)の指定(全中間杭共通)が行えます。

### ◆アンカー支保工段の仕様

①アンカー

②アンカー腹起し・台座

【鋼材種類】・・・各段ごとに指定可能

③アンカー腹起しブラケット 【鋼材種類】・・・全段共通

【メモ】

※「腹起しブラケット」には、『組立ブラケット』または『H形鋼ブラケット』が指定できます。 ※各段とも上下2本の「腹起し」を配置します。 ※アンカー1体につき、腹起しブラケットを2個配置します。

### ◆タイロッド段の仕様

①タイロッド
 【タイロッド直径】・・・・・全タイロッド共通
 【余長】・・・・・・・・・・・・・・・・・・全タイロッド共通
 【取付角度】・・・・・・・・・・・・・・・・・全タイロッド共通
 【タイロッド配置間隔】・・・各タイロッドごとに指定可能

②タイロッド腹起し

【鋼材種類】・・・・・・・全腹起し共通(溝形鋼とH形鋼から選択可)

【メモ】

※上下2本の「腹起し」を配置します。

2 フローチャート



# 第2章 操作ガイダンス

# 1 基本情報入力

作図する構造物の形状を指定します。

各入力項目の詳細については製品の【ヘルプ】をご覧ください。(使用サンプルデータ: SoilMixingWall.F8E)



### 基本情報

以下の各項目を変更し、確定を押します。



*	(参考)
---	------

項目	説明
基本条件	土留め壁の種類を指定します
土留め壁	Bx:左右壁間の距離(単位:m)を入力します。
	※寸法指定方法が「壁体内々距離」の場合は「左右壁の内面間距離」を、「壁体芯々距離」の場合は「左右壁の中心間
	距離」を入力して下さい。
	By:前後壁間の距離(単位:m)を入力します。
	※寸法指定方法が「壁体内々距離」の場合は「前後壁の内面間距離」を、「壁体芯々距離」の場合は「前後壁の中心間
	距離」を入力してください。
	最終掘削深さGL:最終掘削深さの標高(単位:m)を入力します。
	※標高は、任意の基準点より上方の場合「プラス(+)」の値を、下方の場合「マイナス(-)」の値を入力してください。
支保工 切ばり	切ばりの配置情報を自動算出するための情報(切ばり本数・両端開始幅 [単位:mm])を指定します。なお、自動算出さ
	れた切ばりの配置情報は、ツリービューの「形状」の「支保工平面」に設定され、その情報が作図に使用されます。
支保工位置	支保工を設置する標高(単位:m)を各段ごとに入力します。
	※支保工位置の標高は、任意の基準点より上方の場合「プラス(+)」の値を、下方の場合「マイナス(-)」の値を入力してく
	ださい。

# 2 条件設定

# 2-1 図面生成条件

図形の縮尺や作図の有無・作図方法など各図面を生成する際の条件を設定します。

 UC-Draw9-//LX (Earth Retaining) - SH&Rtick.F8E[更新]
 ■

 7\*/LKC
 StAt(c)
 x7b>c(c)
 ∧LT(c)

 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE

 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE

 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE

 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 IDE
 <t



図面生成条件

・メニューバーの<条件>から<図面生成条件>を選択します。

今回は特に編集する必要はありません。 そのまま確定ボタンを押します。

# 2-2 図面作図条件

図面生成時に使用する材料計算用基準値や数値の止め・まるめ方法、および寸法線・引出線・文字・表の作図書式などを指 定します。



### 図面作図条件

・メニューバーの<条件>から<図面作図条件>を選択します。

今回は特に編集する必要はありません。 そのまま確定ボタンを押します。

※ (参考)

初期値として国土交通省仕様に準拠した条件が設定されてい ます。

なお、本プログラムでは国土交通省仕様のほかに道路公団使 用の作図仕様データも用意しています。道路公団仕様に準拠し て図面を作成する場合は、「作図条件データの選択」の「▼」 をクリックし、「道路公団」を選択します。

※各値は任意に変更できますので、必要に応じて変更してご使 用ください。

# 3 形状情報入力

作図する土留め工の形状に関するデータを入力します。

### 3-1 壁体側面

土留め工の側面情報として、「掘削側水位」・「地表面天端」・「背面側水位」・「壁体天端」・「壁長」・「SMW壁の先端ソイ ルセメント長」・「控え杭天端」・「控え杭長」を入力します。



項目ツリーの<形状>から<壁体側面>を選択します。



### 形状一壁体側面

以下の各項目を変更し、確定を押します。

水位を作図する <チェックを入れる>

掘削側水位WL <-10.5>

(m)	背面側水位	壁体天端	壁長	先端ソイルセメント長
左壁	0.5	1	20	1
右壁	0.5	1	20	1
前壁	0.5	1	20	1
後壁	0.5	1	20	1

※どの情報も「m単位」で入力してください。

※水位を作図する場合は、「水位を作図する」チェックボック スをチェックし、「掘削側水位」と「背面側水位」をそれぞれ入 力してください。

※「地表面天端」・「背面側水位」・「壁体天端」・「壁長」・ 「SMW壁の先端ソイルセメント長」・「控え杭天端」・「控え 杭長」については、各壁ごとに入力してください。

※掘削側水位は、全壁共通となりますので、入力は1つのみで す。

※「掘削側水位」・「地表面天端」・「背面側水位」・「壁体天 端」には、『標高(任意の基準点より上方の場合「プラス(+)」の 値、下方の場合「マイナス(-)」の値)』を入力してください。 ※参考情報として「最終掘削深さGL」を表示します。なお、

「最終掘削深さGL」の変更は、ツリービューの「基本情報」 で行ってください。

# 3-2 支保工平面

切ばり支保工段の平面情報として、「切ばり」・「切ばり火打ち」・「隅火打ち」・「中間杭」の配置情報を入力します。 ※本メニューは、ツリービューの「基本情報」の設定が以下の場合のみ表示されます。

・「支保工の形式」が『切ばり支保工』および『切ばり+アンカー支保工』、で「切ばり有り」がチェックされている場合



切ばり タブ



### 形状-支保工平面

項目ツリーの<形状>から<支保工平面>を選択します。

※画面左側に現在の配置状況の概略図が表示されますので入 力の参考としてください。

### 切ばり タブ

以下の各項目を変更し、確定を押します。

左右 (横) 🗄	切ばり配置	前後 (縦) 🕯	切ばり配置
No.	間隔(mm)	No.	間隔(mm)
前壁~1	5000	左壁~1	5000
1~2	5000	1~2	5000
2~3	5000	2~3	5000
		3~4	5000

※ (参考)

左右方向(横方向)切りばり

・1本目 :前壁から切ばり中心までの間隔

・2本目以降:隣接の切ばり中心から配置する

切ばり中心までの間隔

前後方向(縦方向)切りばり

- ・1本目
   ・二左壁から切ばり中心までの間隔
- ・2本目以降:隣接の切ばり中心から配置する 切ばり中心までの間隔

※切ばりを追加する場合は、白色の未入力欄(間隔が入力され ている最後の切ばりの次の欄)に間隔を入力してください。 ※切ばりを削除する場合は、削除したい切ばりの間隔欄にセル カーソルを移動し、「Delete」キーを押下してください。 ※配置する際の原点位置は、ツリービューの「基本情報」の 「土留め壁」の「寸法指定方法」により変わりますのでご注意 ください。

### 切ばり火打ち タブ



切ばり火打ち タブ 今回は特に編集する必要はありません。

※ (参考)

画面上部の選択リストから入力対象を選択(反転表示)し、各情報を入力してください。

◆全段共通(単位:mm)

「左右方向切ばり火打ち」と「前後方向切ばり火打ち」それぞれで入力してください。

Lk1(1重目の切ばり火打ちスパン)

「腹起し内面と切ばり中心線の交点」から
 「腹起し内面と切ばり火打ち中心線の交点」までの距離

Lk2~Lk5(2重目以降の切ばり火打ちスパン) ・腹起し内面での隣接する切ばり火打ちの中心線間距離

※切ばり火打ちのスパンを各段ごとに設定することはできません。



### ◆\*段目

配置する切ばりごとに切ばり火打ちの重数(平面配置本数)を入力してください。

### 【メモ】

※切ばり火打ちを配置しない場合は「0」を入力してください。なお、切ばりの両端には同じ切ばり火打ちを配置する仕様としていますので、 この場合は切ばりの両端ともに配置されません(切ばりの片端のみの配置は行えませんのでご注意ください)。



※1重の場合は「Lk1」の位置に、2重の場合は「Lk1・Lk2」の位置に、3重の場合は「Lk1・Lk2・Lk3」の位置に、4重の場合は 「Lk1・Lk2・Lk3・Lk4」の位置に連続して配置します(飛ばして配置することはできませんのでご注意ください)。



◆「本段の設定を全段に適用する」ボタン

本ボタンを押下することで、現在表示されている切ばり火打ちの重数(平面配置本数)を他の全ての段に設定します。

### 隅火打ち タブ



隅火打ちタブ 今回は特に編集する必要はありません。

※ (参考)

- ◆全段共通(単位:mm)
- Lk1(1重目の隅火打ちスパン)
  - ・「腹起し内面」と「腹起し内面と隅火打ち中心線の交点」までの距離

Lk2~Lk5(2重目以降の切ばり火打ちスパン) ・腹起し内面での隣接する隅火打ちの中心線間距離

※隅火打ちのスパンを「各段ごと」また「各隅角部ごと」に設定することはできません。



### ◆\*段目

配置する隅角部ごとに隅火打ちの重数(平面配置本数)を入力してください。

### 【メモ】

※隅火打ちを配置しない場合は「0」を入力してください。 ※第1~第4の隅角部の位置は、以下の通りです。

- ・第1隅角部・・・右壁と後壁の交点(右上隅)
- ・第2隅角部・・・左壁と後壁の交点(右上隅)
- ・第2隅角部・・・左壁と前壁の交点(左上隅)
- ・第4隅角部・・・右壁と前壁の交点(右下隅)

※1重の場合は「Lk1」の位置に、2重の場合は「Lk1・Lk2」の位置に、
 3重の場合は「Lk1・Lk2・Lk3」の位置に、
 4重の場合は「Lk1・Lk2・Lk3・Lk4」の位置に連続して配置します
 (飛ばして配置することはできませんのでご注意ください)。



· = /	· - + /	· • ± ·	· · ± ·
	- MI	Ŵ	M
[O] \\	[0]	[0] 🕅	[0] <sup>[</sup> ]
	M		Ŵ
[×]	[×]	[×]N	[×]∛

◆「本段の設定を全段に適用する」ボタン

本ボタンを押下することで、現在表示されている隅火打ちの重数(平面配置本数)を他の全ての段に設定します。

### 中間杭 タブ



※ (参考)

◆行・列

中間杭は、切ばりの交差位置に配置します。そのため、左右方向の切ばり番号を「行番号」、前後方向の切ばり番号を「列番号」とし、その番号を入力することで、配置有無と配置位置指定を行います。

【×モ】

※「行番号」・「列番号」が入力された位置の中間杭を作図します。

※入力可能な中間杭の本数(No数)は、切ばりの交差総数となります。

◆「全杭配置」ボタン

本ボタンを押下することで、全ての切ばりの交差位置に中間杭を配置します(「行・列」に全杭の配置情報が設定されます)。

◆「全杭取消」ボタン

本ボタンを押下することで、中間杭配置なし状態にします(「行・列」の配置情報が全て削除されます)。

◆「行列設定」ボタン

「行」と「列」の情報を入力後、本ボタンを押下することで指定した杭の配置情報を追加します。なお、「0」を指定することで行単位・列単 位の追加が行えます。

例1) 「1行0列」: 左右方向の1行目の全ての杭の配置情報を設定

例2) 「0行2列」:前後方向の2列目の全ての杭の配置情報を設定

例3) 「0行0列」:全ての杭の配置情報を設定

# 3-3 支保工側面



\_形状-支保工側面

項目ツリーの<形状>から<支保工側面>を選択します。

形状一支保工側面
中間杭
天端高: 0.000 m 根入れ長: 2.000 m
【 ✔ 確定   ★ 取消   ? ヘルフ℃円

以下の各項目を変更し、確定を押します。

中間杭 根入れ長 <2>

※ (参考)

※どの情報も「m単位」で入力してください。

※「天端高」には、『標高(任意の基準点より上方の場合「プラ ス(+)」の値、下方の場合「マイナス(-)」の値)』を入力してくだ さい。

※「根入れ長」には、最終掘削時の掘削底面からの根入れ長 を入力してください。

※本メニューは、以下の場合表示されません。

・ツリービューの「基本情報」の「形状」が『直線の任意区 間』の場合

・ツリービューの「基本情報」の「支保工の形式」が『自立 式』および『アンカー支保工』の場合

・ツリービューの「基本情報」の「中間杭有り」がチェックさ れていない場合

# 4 使用部材

土留め壁および支保工に使用する部材に関するデータをを入力します。

### 4-1 壁体

SMW壁の情報を入力します。



20



以下の各項目を変更し、確定を押します。

鋼材

	孔径	中心間隔	使用鋼材番号	設置方法
全壁	650	400	33	全孔

※ (参考)

◆タイプ
 壁体のタイプを指定します。

### ◆鋼材

芯材に使用する鋼材情報を指定します。

【メモ】

※指定された鋼材を全壁(前壁・後壁・左壁・右壁)で使用しま す(各壁ごとの指定は行えません)。

※使用鋼材番号は、『鋼材番号の入力ボックスをマウスで選択 すると、指定可能な鋼材一覧画面が表示されますので、使用す る鋼材を選択(反転表示)後、「確定」終了する』ことで指定して ください。なお、登録鋼材の修正(部材の追加や変更)は、「部 材(M)」→「部材登録(R)」で行ってください。

※柱列壁の場合の芯材の設置方法は、以下の中から指定して ください。

- ・「全孔」・・・全孔に設定
- ・「隔孔」・・・2孔に1本ずつ設定
- ・「隔孔(3孔2本)」・・・3孔に2本ずつ設定

### ◆コーナー処理

コーナーの施行方法を指定します。

### ◆芯材配置位置

- コーナー部の芯材の配置位置を指定します。
- 【メモ】

※本入力は柱列壁の場合のみ表示されます。

※鋼材の「芯材の設置方法」の内容により、指定項目が変わり ます。

<芯材の設置方法が「全孔」の場合>

・どのタイプを指定してもすべてのソイルセメント柱に配置します。

<芯材の設置方法が隔孔の場合>

- ・タイプ1・2・・・コーナーから1本目のソイルセメント柱を
- 基点に1本置きに配置します。 ・タイプ3・・・・コーナーから2本目のソイルセメント柱を 基点に1本置きに配置します。

<芯材の設置方法が「隔孔(3孔2本)」の場合>

- ・タイプ1・・・コーナーから1本目・2本目のソイルセメント 柱に配置し、その配置を繰り返します。
  - ・タイプ2・・・コーナーから1本目・3本目のソイルセメント
  - 柱に配置し、その配置を繰り返します。 ・タイプ3・・・コーナーから2本目・3本目のソイルセメント
  - ・ダイノ3・・・コーテーから2本目・3本目のソイルセメント 柱に配置し、その配置を繰り返します。

# 4-2 腹起し

### 腹起しの情報を入力します。



### 使用部材 – 腹起し ブラケットタイプー コーナー処理・ジョイント位置ほか □mm Cなし ●組立 CH形鋼 間隔保持材高さ: 確認 綱材 左右壁 前後壁 フラケット 番号 鋼材長 フ・ラクット フ・ラクット 番号 鋼材長 No. 使用鋼材番号 段数 使用鋼材番号 重数 段数 重数 1 19 19 2 19 19 3 19 19 1 4 19 1 1 1 19 1 1 1 【 ✔ 確定 ★ 取消 ? ヘルフ℃日)

### ※ (参考)

◆鋼材

腹起しに使用する鋼材番号、鋼材段数(多段配置の段数)を指定します。

【メモ】

※指定は、「前後壁」ボタンと「左右壁」ボタンで切り替えて、「前後壁」と「左右壁」それぞれで、支保工の各段ごとに行ってください。 ※使用鋼材番号は、『鋼材番号の入力ボックスをマウスで選択すると、指定可能な鋼材一覧画面が表示されますので、使用する鋼材を選択 (反転表示)後、「確定」終了する』ことで指定してください。なお、登録鋼材の修正(鋼材の追加や変更)は、「部材(M)」→「部材登録(R)」で 行ってください。

### ◆間隔保持材高さ

腹起しを多段配置する際の「腹起し間の高さ方向の間隔(単位:mm)」を指定します。 ◆コーナー処理・ジョイント位置ほか 腹起しのジョイント位置や腹起しブラケット、隅角部ピース、腹起しコーナー処理に関する情報の入力を行います。 本ボタンを押下して表示される画面にて入力してください。

※本メニューは、ツリービューの「基本情報」で以下のように設定されている場合のみ表示されます。

・「支保工の形式」が『切ばり支保工』または『切ばり+アンカー併用工』。

以下の各項目を変更し、確定を押します。

鋼材

使用部材ー腹起し

No.	左右壁 使用鋼材番号	前後壁 使用鋼材番号
1~4	19	19

項目ツリーの<使用部材>から<腹起し>を選択します。

# 4-3 切ばり

### 切ばりの情報を入力します。



	使用部材-切ばり ×						
-ブラケ () なし	- ブラケットタイプ - ○ なし						
鋼材							
	左右方	向	前後方	向	ブラク	「ット	_
No.	使用鋼材 番号	段数	使用鋼材 番号	段数	使用綱材 番号	鋼材長	
1	19	1	19	1	1		
2	19	1	19	1	1		
3	19	1	19	1	1		
4	19	1	19	1	1		
	4     13     13     1       -ジョイント・ジャッキ位置       「自動生成       前後方向     6000.0       左右方向     6000.0       マジャッキ有無       確認/自動生成						
	【 ✔ 確定】 ★ 取消   ? ヘルフ℃出)						

# 4-4 切ばり火打ち

### 切ばり火打ちの情報を入力します。



### 使用部材-切ばり

項目ツリーの<使用部材>から<切ばり>を選択します。

### 以下の各項目を変更し、確定を押します。

### 鋼材

No.	左右方向 使用鋼材番号	前後方向 使用鋼材番号
1~4	19	19

### ※ (参考)

◆切ばりブラケット 切ばりを支えるブラケットのタイプを指定します。

### ◆鋼材

鋼材情報を指定します。

### 【メモ】

※使用鋼材番号は、『鋼材番号の入力ボックスをマウスで選択 すると、指定可能な鋼材一覧画面が表示されますので、使用す る鋼材を選択(反転表示)後、「確定」終了する』ことで指定して ください。なお、登録鋼材の修正(鋼材の追加や変更)は、「部 材(M)」→「部材登録(R)」で行ってください。

### ◆ジョイント・ジャッキ位置

ジョイント・ジャッキ位置に関する情報の入力を行います。 「確認/自動生成」ボタンを押下して表示される画面にて入力 してください。

### 【メモ】

「自動生成」チェックボックスをチェックしボタンを押下する と、指定された寸法でジョイント位置を自動生成します。

### 使用部材ー切ばり火打ち

- 項目ツリーの<使用部材>から<切ばり火打ち>を選択しま す。

調約長	里	∠里	っ里	- 4里	「三里」
左右方向	1350	3450	5600	7700	9850
前後方向	1350	3450	5600	7700	9850
	· · ·				т
No. 使用鋼材番号 段数 使用鋼材番号 段数					
1 19 1 19 1					
2 19 1 19 1					
3	19	1	19	1	
4 19 1 19 1					

# 4-5 隅火打ち

### 開火打ちの情報を入力します。 UC-Drawy→JJズ (Earth Retaining) - 新規作成.F8E[更新] アイル(E) 条件(C) 彩村(D) オブシシ(D) ヘル/(E) C C 日日回 回 回 記 記 C E 思 ? F9 C 2 E Striften ● St

使用部材一隅火打ち 鋼材 鋼材長(座屈スバン) 2重 3重 4重 5重 1重 1350 3450 5600 7700 9850 細材番号 No. 使用鋼材番号 段数 1 19 1 2 19 1 3 19 1 4 19 1 🗸 確定 🗙 取消 7 ^//ブ(<u>H</u>) 以下の各項目を変更し、確定を押します。

鋼材

左右方向 1350 3450 5600 7700 9850	岡材長	1重	2重	3重	4重	5重
	生右方向	1350	3450	5600	7700	9850
前後方向 1350  3450  5600  7700  9850	前後方向	1350	3450	5600	7700	9850

No.	左右壁 使用鋼材番号	前後壁 使用鋼材番号
1~4	19	19

### ※ (参考)

◆鋼材

切ばり火打ちの情報を指定します。

【メモ】

※使用鋼材番号は、『鋼材番号の入力ボックスをマウスで選択 すると、指定可能な鋼材一覧画面が表示されますので、使用す る鋼材を選択(反転表示)後、「確定」終了する』ことで指定して ください。なお、登録鋼材の修正(鋼材の追加や変更)は、「部 材(M)」→「部材登録(R)」で行ってください。

使用部材-隅火打ち

-項目ツリーの<使用部材>から<隅火打ち>を選択します。

以下の各項目を変更し、確定を押します。

鋼材

<b>軪</b> 杓女 (座	「個人ハノ」			
1重	2重	3重	4重	5重
1350	3450	5600	7700	9850

No.	使用鋼材番号
1~4	19

※ (参考)◆鋼材隅火打ちの情報を指定します。

【メモ】

※使用鋼材番号は、『鋼材番号の入力ボックスをマウスで選択 すると、指定可能な鋼材一覧画面が表示されますので、使用す る鋼材を選択(反転表示)後、「確定」終了する』ことで指定して ください。なお、登録鋼材の修正(鋼材の追加や変更)は、「部 材(M)」→「部材登録(R)」で行ってください。

# 4-6 火打ちピース

### 火打ちピースの情報を入力します。



### 使用部材-火打ちピース 編集する段 : 1段目 ▼ 本段の設定を全段に適用する [後壁側] 1 隅 : а 1 : b **F 6** 前後壁 : c 1 1 : d 左右壁 : e 1 1 : f e C [前壁側] 自動設定 🦳 🗸 確定 👘 🗙 取消 **?** ヘルブ(H)

使用部材-火打ちピース

-項目ツリーの<使用部材>から<火打ちピース>を選択します。

以下の各項目を変更し、確定を押します。

一①「自動設定」ボタンを押します。入力値が全て1になります。
 一②「本段の設定を全段に適用する」ボタンを押してください。

### ※ (参考)

◆編集する段

火打ちピースに関する情報を設定する「段」を指定します。 【メモ】

※「本段の設定を全段に適用する」ボタンをクリックすると、 現在表示されている情報が全段に設定されます。

### ◆隅・前後壁・左右壁

各火打ちに設置する火打ちピースの鋼材番号を指定します。ガ イド図を参考に各火打ちごとに指定してください。 【メモ】

※使用鋼材番号は、『鋼材番号の入力ボックスをマウスで選択 すると、指定可能な鋼材一覧画面が表示されますので、使用す る鋼材を選択(反転表示)後、「確定」終了する』ことで指定して ください。なお、登録鋼材の修正(鋼材の追加や変更)は、「部 材(M)」→「部材登録(R)」で行ってください。

### ◆「自動設定」ボタン

登録されている火打ちピースから、火打ち材と同じ断面サイズの火打ちピースを選択し、「隅・前後壁・左右壁」に設定します。

### 【メモ】

※設定は、全段の火打ちピースに対して行います。

# 4-7 中間杭

中間杭の情報を入力します。なお、本画面の指定は、全ての中間杭で使用されます。



25

使用部材-中間杭		
使用鋼材番号: 19		
- 中間杭の位置		
◎ 第1象限		
○ 第2象限 <sup>第2</sup> 象限 第1象限		
○第3象限 第3象限 第3象限 第3象限 第3象限 第3象限 第3象限 第3条限 第3条限		
○ 第4象限		
切ばり中心からの距離		
H1 切ばり中心からの距離(H1) 0.0 mm		
Julie		
【 ✔ 確定】		

以下の各項目を変更し、確定を押します。

\_\_ 使用鋼材番号 <19>

※(参考)◆使用鋼材番号

◆使用動材番号 使用する鋼材番号を指定します。

### 【メモ】

※使用鋼材番号は、『鋼材番号の入力ボックスをマウスで選択 すると、指定可能な鋼材一覧画面が表示されますので、使用す る鋼材を選択(反転表示)後、「確定」終了する』ことで指定して ください。なお、登録鋼材の修正(鋼材の追加や変更)は、「部 材(M)」→「部材登録(R)」で行ってください。

◆中間杭の位置

交差する切ばりに対し、どの位置(第1~第4象限)に中間杭を 配置するかを指定します。

◆切ばり中心からの距離

交差する切ばりからの離れを指定します。切ばり中心線から中間杭中心までの距離(単位:mm)を入力してください。

### 【メモ】

※「H1」には前後方向切ばりの中心線からの距離を、「H2」 には左右方向切ばりの中心線からの距離を入力してください。

※切ばりと重なるような位置が入力された場合、切ばりと重な らないように配置位置を自動調整して作図します。

# 5 設計条件表

数量設計条件表に作図する以下の項目を入力します。

- ・土圧-安定計算方法
- •土圧--断面計算方法
- ・水圧(水圧形状)
- ·地表面上載荷重
- ・切ばりの温度軸力



### 設計条件表

- 項目ツリーの<設計条件表>を選択します。

設計条件表 ×			
土圧-安定計算方法 一断面計算方法 水圧 地表面上載荷重 切ばりの温度軸力	<ul> <li>ランキンレザール式</li> <li>断面計算用土圧</li> <li>三角形分布</li> <li>10.00 kN/m<sup>2</sup></li> <li>150.0 kN</li> </ul>		
(1000 KN) ▲ 107 (日)			

以下の各項目を変更し、確定を押します。

地表面上載荷重 <10>

切ばりの温度軸力 <150>

- ※ (参考)
- 【メモ】

※「土圧-安定計算方法」・「土圧-断面計算方法」・「水圧」については、文字列を入力してください。

※「水圧」は、ツリービューの「形状」→「壁体側面 (側面)」の「水位を作図する」チェックボックスが記入されている場合に入力できます。

- ※「上載荷重」・「切ばりの温度軸力」については、数値を入力してください。
- ※設計条件表には、本画面にて入力された情報をそのまま作図します。
- ※上記以外の項目については、以下の内容を作図します。
  - ・対象構造物・・・「条件(C)」→「図面生成条件(G)」の「対象構造物名」
  - ・掘削面積・・・・・ツリービューの「基本情報」の「土留め壁の寸法」からの算出値
  - ・掘削深さ・・・・・ツリービューの「基本情報」の「最終掘削深さ GL」
  - ・水位・・・・・・・ツリービューの「形状」→「壁体側面 (側面)」の「掘削側水位 WL」

# 6 数量計算

数量算出時に使用する書式の設定や数量計算書の生成を行います。

# 6-1 条件

数量算出の際に使用する、各単位の小数点以下桁数と止め・まるめを設定します。



### 数量計算一条件

- 項目ツリーの<数量計算>から<条件>を選択します。

今回は特に編集する必要はありません。 そのまま確定ボタンを押します。

# 6-2 計算書作成 (PPF)

数量計算書で使用する情報のセットと計算書のプレビューを行います。



### ※ (参考)

◆総括表の表記文字列(材質など) 総括表に表記する文字列を入力してください。材質に限りません。 ※文字列を表記しない場合は、空白にしてください。※使用しない部材の情報は、入力する必要はありません。 ※『m^2』 などの累乗を入力する場合、最後に半角スペースを入れてください。

◆グラウト

アンカー支保工で使用するグラウトの仕様および補正係数を入力してください。 ※仕様を空白にすると、次の行以降をつめて作図します。 ※アンカーを使用しない場合は、入力する必要はありません。

◆副部材算出方法 部材の数量の算出方法を指定します。

◆土留め壁 引抜/埋殺工 表作図 打込工と引抜工で数量が異なる場合にデータを入力してください。 ※本項目は、土留め壁が鋼矢板の場合のみ表示されます。 ※打込みと引抜きで長さが異なる鋼材のみ入力してください。

◆「計算書プレビュー」ボタン 「プレビュー」ボタンを押下することにより数量計算書の生成を行います。 ※数量計算書には、使用する部材のみ表記します。 ※数量計算書の操作方法に関しては、「F8 出力編集ツール」のヘルプを参照してください。

# 6-3 計算書作成 (ODF)

数量計算書のODF (OpenOffice Calc) にて計算書出力を行います。

※ODF出力を動作させるためにはOpenOffice.org Ver.3がPCにインストールされている必要があります。

OpenOfficeは、無料で入手できて、自由に利用できる統合オフィスソフトです。

OpenOffice日本語プロジェクト: http://ja.openoffice.org/

各項目の詳細は「6-2-2 計算書作成 (PPF)」を参考にしてください。



# 7 図面生成



# 

# 7-1 図面表示



<図面確認>画面は<表示モード>で起動し、<選択ウィンド ウ>と<図面ウィンドウ(表示モード用)>が表示されます。 図面確認を終了する場合は、メニュー<終了>をクリックして ください。

※ (参考)

<拡大表示>

拡大表示したい領域を囲む矩形の隅点をクリックで指定し、ドラッグしたまま対角にある隅点までマウスを移動し、ドラッグを解除しま す。矩形で指定した領域が拡大表示されます。

<図面全体表示>

拡大表示している図面ウィンドウ内で右クリックします。図面全体を表示する図面表示に戻ります。

<表示領域の移動>

図面ウィンドウの右側および下側のスクロールバーまたはキーボードの「↑・↓」「→・←」キーの押下で上下左右に表示領域が移動します。

※スクロールマウスを使用していた場合、ホイールによる拡大・縮小表示および表示領域の移動が行えます。

拡大:ホイールを前方向に回転

縮小:ホイールを後方向に回転

移動:ホイールを押したままでのドラッグ

### 図面生成

項目ツリーの<図面生成>を選択します。

配筋図から加工図・鉄筋表などの全図面を一括生成します。生 成後は、「図面-図面確認」を選択したときに表示される図面 確認画面が表示されます。なお本メニューは、「形状」が入力 済となった時点で有効となります。

### 図面確認

図面生成が終了すると、<図面確認>ウィンドウが表示されま す。ここで図面の確認、編集、印刷等が行えます。

図面が複数ある場合、「選択ウィンドウ」で表示したい図面を クリックするか、または「図面確認」画面メニューの 「<<前図面(R)」、「次図面(F)>>」をクリックすることで、各 図面を表示することができます。

# 7-2 図面編集



# 図面編集

<選択ウィンドウ>の<編集>ボタンを押します。

<編集モード>に移行し、「図面ウィンドウ(編集モード用)」 に切り替わりますので、編集用のメニューを選択して図形・寸 法線・引出線の移動を行います。詳しい編集方法は下記以降 を参照してください。

なお、<表示モード>へは、「図面ウィンドウ(編集モード用)」 の<編集終了>ボタンクリックで戻ります。

### 編集モード



### 図面の表示(編集モード)

<表示>メニューまたはツールバーのボタン等にて拡大表示や図面全体表示が行えます。 編集作業中も「図面の拡大・縮小表示」や「図面の表示領域の変更」は可能ですので必要に応じて操作して下さい。

### <「表示」メニュー>



<ツールバー>



<マウス操作> スクロールマウスを使用していた場合、ホイールによる拡大・ 縮小表示が行えます。 ①拡大:ホイールを前方向に回転 ②縮小:ホイールを後方向に回転

### 図面移動



①移動したい図形をクリック (クリック指定) するか、またはマウスで図形の周りを囲むようにドラッグ (BOX指定) して選択します。 選択された図形は選択状態表示 (ピンク色) に変わります。

②「編集」-「任意移動」、「垂直移動」または「水平移動」メニューを選択します。マウスカーソルが 🕀 に変わり、移動基準点待ち状態に

なります。

③クリックで移動する図形の基準点を指定します。指定後、マウスカーソルは元の状態に戻ります。

④クリックで移動先を指定すると、指定された位置に図形が移動します。移動後は、マウスカーソルが ⊕ に変わり、移動基準点待ち状態に戻ります。

⑤右クリックで移動処理が終了し、②の図形選択待ち状態に戻ります。

※図形選択は、同じ縮尺の図形のみ複数選択が可能です。

異なる縮尺の図形は一度に選択できませんので、別々に移動してください。

※1つ1つ図形を選択する場合は「クリック指定」で、複数の図形をまとめて選択する場合は「ドラッグによるBOX指定」で選択してください。なお、「ドラッグによるBOX指定」の場合、少しでもBOX(矩形)に掛かる全ての図形が移動対象として選択されます。

※図形選択をShift キーやCtrl キーのキーボードとの併用で行うと、追加選択や選択解除などの選択方法の変更が行えます。

※図形移動モード中も「図面の拡大・縮小表示」や「図面の表示領域の変更」は可能ですので、表示状態を変更しながらの図形移動が行えます。

(「矩形指定拡大」、「中心指定拡大」を実行後に拡大実行を終了する場合は、マウスを右クリックしてください。)

※行った編集処理を一つ一つ取り消しながらさかのぼる「アンドゥ」は「編集」 –「アンドゥ」メニューで、アンドゥした処理を復元する「リドゥ」は「編集」 –「リドゥ」メニューで行えます。

### 寸法線編集

![](_page_31_Figure_17.jpeg)

# 寸法線編集

ツールバーの<寸法編集>ボタンを押します。 寸法線以外の要素がトーンダウン表示に変わり、寸法線選択 待ち状態になります。

編集したい寸法線をクリック指定で選択します。選択された寸 法線は選択状態表示 (ピンク色) に変わります。

編集するハンドルをクリックで選択します。 ハンドルの表示状 態が変わります。

マウスカーソルを編集先に移動してクリックします。編集後は、 寸法線選択待ち状態に戻ります。

ハンドルとは、選択状態に指定された寸法線や引出線に表示 される矩形マークのことです。 ※寸法線編集モード中も「図面の拡大・縮小表示」や「図面の表示領域の変更」は可能ですので、表示状態を変更しながら 寸法線編集が行えます。

(「矩形指定拡大」、「中心指定拡大」を実行後に拡大実行を終了する場合はマウスを右クリックして下さい。) ※行った編集処理を一つ一つ取り消しながらさかのぼる「アンドゥ」は「編集」 –「アンドゥ」メニューで、アンドゥした処理 を復元する「リドゥ」は「編集」 – 「リドゥ」メニューで行えます。

ハンドル操作による編集は寸法線やハンドルの種類によって変わります。具体的な操作は以下を参照してください。

![](_page_32_Figure_3.jpeg)

### 引出線編集

![](_page_33_Picture_2.jpeg)

### - 引出線編集

ツールバーの<引出編集>ボタンを押します。

※図面生成を行い、編集画面において「引出編集」を行う場合、引出を移動させると参照点(矢印の先)も一緒にずれてしまう。数値と下線のみ移動は可能か? (Q1-2-1参照) https://www.forum8.co.jp/faq/win/tools-bridgeqa.htm#Q1-2-1.\_

引出線以外の要素がトーンダウン表示に変わり、引出線選択待ち状態になります。

編集したい引出線をクリック指定で選択します。選択された引出線は選択状態表示(ピンク色)に変わります。

編集するハンドルをクリックで選択します。ハンドルの表示状態が変わります。

マウスカーソルを編集先に移動してクリックします。 移動後は、引出線選択待ち状態に戻ります。

※ (参考)

 ◆メニュー選択による編集 上記の①~②と同じ手順です。
 ③「編集」−「任意移動」メニューを選択します。
 マウスカーソルが に変わり、移動基準点待ち状態になります。
 ④クリックで移動する引出線の基準点を指定します。指定後、マウスカーソルは元の状態に戻ります。
 ⑤クリックで移動先を指定すると、指定された位置に引出線全体が移動します。移動後は、移動基準点待ち状態に戻ります。
 ⑥右クリックで移動処理が終了し、②の引出線選択待ち状態に戻ります。

※「複数直線引出線」の場合、右クリックで表示される「ポップアップメニューでの引出線編集」が行えます。
※引出線編集モード中も「図面の拡大・縮小表示」や「図面の表示領域の変更」は可能ですので、表示状態を変更しながらの引出線編集が行えます。
(「矩形指定拡大」、「中心指定拡大」を実行後に拡大実行を終了する場合はマウスを右クリックして下さい。)

(「定形指定拡入」、「中心指定拡入」を実行後に拡入実行を終」する場合はマワスを石クリックして下さい。) ※行った編集処理を一つ一つ取り消しながらさかのぼる「アンドゥ」は「編集」-「アンドゥ」メニューで、アンドゥした処理を復元する「リ ドゥ」は「編集」-「リドゥ」メニューで行えます。

![](_page_33_Picture_14.jpeg)

ハンドルとは、選択状態に指定された寸法線や引出線に表示される矩形マークのことです。

![](_page_34_Figure_0.jpeg)

ハンドル操作による編集は引出線やハンドルの種類によって変わります。具体的な操作は以下を参照してください。

# 7-3 図面出力

図面をファイル (SXF ファイル・DWG ファイル・DXF ファイル・JWW ファイル・JWC ファイル) やプリンタ・プロッタへ出力 します。

![](_page_35_Picture_3.jpeg)

# 出力(0) 編集(E) 表示(D) 設定(S) ハルプ\*(H) 終了(X) SXF出力(A)... 表示出力 引出編集 寸法編集 図形移動 DWG・DXF出力(O)... JWW・JWC出力(J)... 図面印刷(P) ・ ドライバ出力(P)... Ctrl+P ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・

図面出力は、編集モードに移行して行います。 <選択ウィンドウ>の<編集>ボタンを押します。 ※すでに編集モードになっている場合は、この操作は不要です。

<出力>メニューを選択して図面の出力を行ってください。 なお、<表示モード>へは、「図面ウィンドウ(編集モード用)」 の<編集終了>ボタンクリックで戻ります。

# ファイル出力

以下はSXF 出力の方法になりますがDWG・DXF ファイル・JWW・JWC ファイルへの出力も方法は同様です。

![](_page_35_Picture_9.jpeg)

### SXF出力

図面出力

-メニューバー<出力>から、<SXF 出力>を選択します。

S X F 一括出力 ×	SXE出力
図面一覧 〈反転表示で出力〉	
新規作成.PSX:图面1	<sxf 一括出力="">ウィンドウが表示されます。 以下の各項目を変更し、確定を押して出力します。</sxf>
	<図面一覧>でファイル出力 (保存) する図面をクリックして選択します。 ※1
出力ファイル 出力フォルダ: C:¥Program Files (x86)¥Forum 8¥DrawDDM¥Data¥ 変更 ・ ここで入力したファイル名で出力する: 新規作成.SFC 参照	<出力フォルダ>でSXF ファイルの出力先フォルダを指定します。<変更>ボタンをクリックして、出力(保存)先フォルダを指定してください。※2
※「ファイル名 + 図面番号」で出力されます	ファイル名称を指定してください。
(例:Sample.sfc(.p21) → Sample-1.sfc(.p21))	なお、くここで指定したファイル名で出力する>を選択した場
○ 基準類の命名規則に従ったファイル名で出力する ※ファイル名が <未設定>の図面は選択されていても無視されます	合はファイル名称も入力してください
出力形式	
◎ SFCファイル形式 ○ P21ファイル形式	
☆      ☆	<設定>ボタンをクリックすると、 <sxf 出力の設定="">画面が 表示されますので、出力時の各種条件の設定を行います。</sxf>
	-

※ (参考)

‰1

図面は複数選択が可能です。

複数図面の選択は、「Shift」キー、「Ctrl」キーを併用しながらのクリックで行います。

・「Shift」キー+マウス:すでに選択状態の図面から指定した図面までが選択されます。

・「Ctrl」キー+マウス:指定した図面のみの選択状態を変更します。

ж2

<参照>ボタンをクリックすると「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されますので、保存するファイルの指定が行えます。 <ここで指定したファイル名で出力する>場合、実際に保存するファイルの名称は「入力されたファイル名に番号を付加したもの」になりま

す。 <基準類の命名規則に従ったファイル名で出力する>場合、メニュー<設定>-<図面設定>の<ファイル名付け>で指定された名称で出 力します。

### 図面印刷

ドライバ出力

![](_page_36_Picture_12.jpeg)

- ドライバ出力

メニューバー<出力>から、<図面印刷>-<ドライバ出力> を選択します。

図面印刷	図面印刷
ブリンタ     FX ApeosPort-II C4300 PS H2       「ブリンタの用紙サイズに縮小/拡大する       オフセット       右方向:       0.0 彙 mm       上方向:     0.0 彙 mm       (-2000 0= 2000 0)mm	<図面印刷>ウィンドウが表示されます。 以下の各項目を変更し、確定を押して出力します。 
<ul> <li>円・円弧の出力方法</li> <li>○ 円・円弧として出力</li> <li>○ スプライン曲線として出力</li> <li>図面一覧 〈反転表示で印刷〉</li> <li>ZMN85C1.PSX:図面1</li> </ul>	
	<図面一覧>で印刷する図面を選択します。 複数図面の選択 ・「Shift」キー+マウス:すでに選択状態の図面から指定した 図面までが選択されます。 ・「Ctrl」キー+マウス:指定した図面のみの選択状態を変更 します。
ブレビュー表示	<ul> <li>印刷イメージを確認したい場合は、画面下部の&lt;印刷プレビュー&gt;ボタンを押してください。</li> <li>出力先の変更は、画面下部の「設定」ボタンをクリックして標示される「プリンクの設定」ダイアログで行きます。</li> </ul>

### ※ (参考)

図面サイズが印刷する用紙と違う場合、「プリンタの用紙サイズに縮小/拡大する」 をチェックすると、印刷する用紙にあわせて図面全体を 縮小/拡大して印刷します。

![](_page_37_Figure_4.jpeg)

ブレビュー表示

🗙 取消

🥐 ∿⊮7°(<u>H</u>)

### ※ (参考)

**※1** 

「図面サイズが印刷する用紙と違う場合、「プリンタの用紙サイズに縮小/拡大する」 をチェックすると、印刷する用紙にあわせて図面全体 を縮小/拡大して印刷します。

ж2

図面は複数選択が可能です。複数図面の選択は、「Shift」 キー、

- 「Ctrl」キーを併用しながらのクリックで行います。
- ・「Shift」キー+マウス:すでに選択状態の図面から指定した図面までが選択されます。
- ・「Ctrl」キー+マウス:指定した図面のみの選択状態を変更します。

※設定した線属性(線色、線幅)で、図面を印刷する方法 (Q1-2-11参照) <u>https://www.forum8.co.jp/faq/win/tools-bridgeqa.htm#Q1-</u> 2-11.\_

※生成した図面をPDFファイルに出力する (Q1-2-14参照) <u>https://www.forum8.co.jp/faq/win/tools-bridgeqa.htm#Q1-</u> 2-14.\_

# 8 ファイル保存

現在作業中の作図基本データと図面データをメニュー「ファイル」ー「名前を付けて保存」

または「上書き保存」でファイルに保存します。

![](_page_38_Figure_13.jpeg)

◆ファイル 名前を付けて保存

現在作業中の入力データと図面データを指定された名称で保存します。

<名前を付けて保存>を選択すると、ファイル選択ウィンドウが開きますので、ファイルを保存する場所を指定し、<ファイル 名>欄に任意のファイル名を入力して<保存>ボタンを押して ください。

◆ファイル | 上書き保存

現在作業中の入力データと図面データを現在のファイル名称 で上書き保存 (更新) します。

ー度も保存されていないデータを保存する場合は、<名前を付けて保存>と同様の操作になります。

### ※ (参考)

保存されるデータファイルは、入力データファイル (\*\*\*.F8E) と図面データファイル (\*\*\*.PSX) です。

図面データが生成されていない場合は、入力データファイルのみ保存します。

メニュー<オプション>-<動作環境の設定>で、入力データおよび図面データを同じ名称のファイルに上書き保存する場合に、バックアップファイルを作成するかしないかを指定することができます。作成する場合は、チェックボックスをチェックしてください。

なお、チェックした場合に作成されるバックアップファイルの拡張子は、入力データファイルの場合は「\*.F7F~」、図面データファイルの場合は「\*.PSX~」となります。 バックアップファイルは、拡張子の「~ (チルダ)」を削除することで本プログラムでの読み込みが可能です。

F) 条件(C) 部材(M)	オプション(0)	へ)レプ(H)
i 🕂 🗐 🖪 🖬	表示項目	目の設定(V)
	動作環境	竟の設定(E)
基本情報		

# 第3章 Q&A

## 1 UC-Drawツールズ「共通」

### 1. 図面作図条件

### Q1-1-1 図面作図条件におけるレイヤ属性の「線色」を変更したい。

A1-1-1 「図面作図条件-レイヤ属性」画面のレイヤに対する「線色」につきましては、各基準にて示されていますので変更することはできません。このレイヤに対する「線色」は、例えば「図面作図条件-線属性-外形線-線色」の項目で「レイヤ値」と設定されている場合に外形線を作図する際に使用(レイヤ属性で示された線色で作図)します。

従いまして、「図面作図条件-線属性-外形線-線色」に「レイヤ値以外の目的の色」を使用したい場合には、「図面作図条件-線属性-外形線-線色」に「レイヤ値以外の目的の色」を設定してください。

### Q1-1-2 引き出し線と鉄筋加工の円の大きさを変更したい。

A1-1-2 鉄筋記号を囲む円の大きさを変更するには、メニューの「条件」-「図面作図条件」の「線属性」-「引出線」-「X文字属 性」にて「文字高さ」と「文字幅」を調整してください。

> 現状では「条件」-「図面作図条件」-「線属性」-「引出線」-「X文字属性」の「文字高さ」と「文字幅」で指定された サイズを円の大きさとしております。

### Q1-1-3 側面図の断面矢視 (矢印+番号) を大きくしたい。

A1-1-3 「条件-図面作図条件-文字属性」の「矢視文字」のサイズ (高、幅)を調整してください。

### Q1-1-4 寸法線の乗算記号を変えたい。

A1-1-4 「条件-図面作図条件-線属性」 画面で乗算記号を変更してください。

### Q1-1-5 文字が縮尺を変えても大きくなっていません。

A1-1-5 文字サイズは、縮尺によらず、図面作図条件画面の各画面の「文字属性」の値に従いますので、各画面にて目的の文字サ イズを入力し、図面生成を行ってください。

・引出線の文字サイズ
1) メインメニューから「条件-図面作図条件-線属性-引出線」ダイアログを開く
2) 丸文字のサイズを「X文字属性」で変更する。
・寸法線の文字サイズ
1) メインメニューから「条件-図面作図条件-線属性-寸法線」ダイアログを開く
2)「文字属性」ボタンを押下、文字サイズを変更する。
・鉄筋表の文字サイズ
1) メインメニューから「条件-図面作図条件-図形属性-鉄筋表」ダイアログを開く
2)「文字属性」ボタンを押下、文字サイズを変更する。

### Q1-1-6 「図面枠線のマージン」の入力場所がわからない。

A1-1-6 下記で変更することができますので、変更後に図面作成を実行してください。 ・図面枠線のマージン 「条件-図面作図条件」-「図面属性-図面枠線」

### Q1-1-7 寸法線の寸法値を「mm」単位で作図したい。

A1-1-7 「条件-図面作図条件-計算基準-止め・まるめ」 画面で、 寸法値の止め(小数点1位止め, mm止め)を選択して下さい。

### Q1-1-8 寸法線の寸法値を「mm」単位で作図した際、部材配置の合計寸法値と配置幅寸法値が一致しない場合がある。

A1-1-8 寸法線の寸法値を「mm」単位で作図した際、各寸法値を「mm」単位で表示しますので、各寸法値によっては、お問合せの現象が生じます。

<小数1位単位> 部材配置寸法(99.5 + 4\*250.0=1000.0 + 100.5)・・・表示合計:1200.0 部材配置幅 (1200.0) <mm単位> 部材配置寸法(100 + 4\*250=1000 + 101)・・・表示合計:1201 部材配置幅 (1200) この現象を回避する(表示合計値を合わせる)には、部材配置位置を調整してください。

### Q1-1-9 図面の表題欄 (タイトル版) を作図しないようにできないか?

A1-1-9 以下の設定により、表題欄 (タイトル版)の無い図面を生成することができます。 「条件-図面作図条件-図面属性」画面を開く 「タイトル版-作図位置」の枠線からの離れ寸法 (右端、下端) に「0」を入力 「確定」で「図面作図条件」画面を閉じ、図面生成を実行

### Q1-1-10 以前に設定した「図面作図条件」は、どこに保存されているか知りたい。

- A1-1-10 設定された「図面作図条件」は、下記の作業領域(ファイルの場所)の図面作図条件ファイル「UC\_SAKUZU.SZJ」に保存されています。
  - ・「図面作図条件」画面を開く。
  - ・「他製品の作図条件(SZJ)読み込み」ボタンを押下する。
  - ・「ファイルを開く」画面の「ファイルの場所」に保存されています。

### Q1-1-11 作図するフォントを変更するには?

- A1-1-11 以下の設定により、作図するフォントを変更できます。
  - ・一括で変更
  - 1.「条件-図面作図条件-レイヤ」画面を開く
  - 2.「各要素に以下のフォントを設定」をチェック状態にして、「フォント」を選択し「確定」する
  - 3. 「図面生成」を実行する
  - ・個別に変更
  - 1.「条件-図面作図条件-図形属性・線属性・文字属性」画面を開く
  - 2.変更したい文字情報のフォントを変更し「確定」する
  - 3. 「図面生成」を実行する

### 1-2. 図面確認

# Q1-2-1 図面生成を行い、編集画面において「引出編集」を行う場合、引出を移動させると参照点(矢印の先)も一緒にずれてしまう。数値と下線のみ移動は可能か?

A1-2-1 引出線は、引出線の表示部(鉄筋記号・数値が作図された線)の中央の□をマウスで左クリックし、マウスを移動することで引出線の移動を行うことが出来ますが、「Ctrl]キーを押しているか否かで以下のように移動状態が変カわりますので、ご確認ください。
 「Ctrl]キー押している時 :矢印など引出線の全体を移動
 「Ctrl]キー押していない時 :□部のある表示部のみ移動

### Q1-2-2 文字をゴシック体でDWG・DXF変換するとビックフォントになる。

A1-2-2 DWG・DXF出力時のファイルバージョンを変更することで改善できます。

- ・「図面確認-編集-出力-DWG・DXF出力-設定」画面を開く
- ・「ファイルバージョン」・・・「Release12」以外にする。

### Q1-2-3 図面枠内の工事名、施工箇所等の名称変更、又当社オリジナルの作成方法はありますか?

- A1-2-3 図面枠内の工事名、施工箇所等の名称変更につきましては、本プログラムでは入力・作図できませんのが、「UC-Draw」のライセンスをお持ちの場合は下記の手順でオリジナルの表題欄を作成し「UC-Drawツールズ(Pile)」で使用することが 出来ます。
  - ■表題欄作成1
  - 1.「UC-Draw」のメニュー「オプションー表シンボル生成機能」を選択
  - 2.「表シンボル生成機能」でオリジナルの表題欄を作成(新規または既存ファイルを編集) <既存シンボルの編集例>
    - ・表シンボル生成機能で既存シンボル(UC-Drawインストールフォルダ内のUCCAD.HDF)を読込む
    - ・書式をオリジナルに編集 (サイズ調整、会社名入力など) する
  - 3. 作成した表題欄を保存
  - ■表題欄作成2
  - 1.「UC-Draw」の図面上でオリジナルの表題欄を作成(新規または既存ファイルを編集) <既存部品の編集例>
    - ・既存の表題欄部品(UC-Drawインストールフォルダ内のUCCAD.SDF)を図面上に貼り付ける ※「表示-シンボル貼り付けウインドウ」で既存部品を選択、貼り付ける。
    - ・書式をオリジナルに編集(サイズ調整、会社名加筆など)する
  - 2.メニュー「編集-部品登録」を選択し作成した表題欄を保存
    - ・例えば、UC-Drawインストールフォルダ内のUCCAD.SDFに名前をつけて部品を登録する
  - ■上記表題欄を「UC-Drawツールズ(Pile)」で使用
  - 1.「UC-Drawツールズ(Pile)」のメニュー「条件-図面作図条件」を選択
  - 2. 「作図条件」の「図面属性」を選択
  - 3.「図面属性」の「タイトル版」で「ファイル名称」の「参照」を選択
  - 4.上記で作成したファイル(\*.HDFまたは\*.SDF)を選択
  - 5.「図面属性」の「タイトル版」で「タイトル名称」を選択
  - 6.「確定」で作図条件を終了
  - 7.「図面-図面作成」で図面を再作成

# Q1-2-4 DWGへの変換時に「DWG・DXF出力の設定」-「DWG・DXF出力2」で「変換方法」を「ユーザー設定」にしてレイヤ名称 を個別に指定して変換しているのですが、設定したレイヤ名称でDWGへ変換されません。

- A1-2-4 「レイヤ名称」の「ユーザー設定」は、図面生成段階で「レイヤタイプ」が「UC-Draw」の場合の設定ですので、「レイヤタ イプ」が「UC-Draw」タイプでない場合には使用していません。 以下の方法で目的のレイヤ名称を設定して下さい。
  - A)図面生成段階の「レイヤタイプ」をUC-Drawとする場合
  - ・「条件-図面作図条件-レイヤ属性」 画面を開く
  - ・「レイヤタイプ」を「UC-Draw」に変更する
  - ・「図面生成」を行い「DXF,DWG」出力を行う。

B)図面生成段階で、目的の「基準」を設定(基準に従ったレイヤ名称付け)する場合

- ・「条件-図面作図条件-レイヤ属性」 画面を開く
- ・「レイヤタイプ」を目的の基準とする
- ・「図面生成」を行い「DXF、DWG」出力を行う。

### Q1-2-5 DWG・DXF出力した場合、文字列が分解されて出力される。

- A1-2-5 「図面確認-編集-出力」画面の「設定」画面内に「文字単位で出力する」か「文字列単位で出力するか」かの設定を準備していますので、目的に合わせた設定にして出力してください。
- Q1-2-6 生成した図面をSXF形式(電子納品用図面形式)で出力したいが、OCF検定に合格しているか?
- A1-2-6 生成した図面を「図面確認-編集-出力-SXF出力」画面にて「出力形式」から「P21形式」を選択し出力してください。 この「図面確認」からのSXF出力機能は、一般社団法人OCFのOCF検定(自動製図)に合格し、認証を取得しています。
- Q1-2-7 図面をAutoCAD形式 (DXF、DWG) で出力した場合、引出線や加工図の鉄筋記号が〇内に収まらない場合がある点を改善する方法はありませんか?
- A1-2-7 「図面確認-編集-出力-DWG・DXF出力」画面の「設定」画面内に「丸文字内の文字補正」設定を準備していますので、目的に合わせた設定にして出力してください。

・「しない」・・・「鉄筋記号」を入力された文字サイズで作図します。(鉄筋記号が〇内に収まらない場合があります。)

・「する」」・・・「鉄筋記号」の文字が〇内に収まる文字サイズで作図します。

### Q1-2-8 生成した図面を「UC-Draw」へ連動し編集したい。

A1-2-8 弊社の2次元汎用CAD「UC-Draw」がインストールされている場合、メイン画面左下の「UC-Draw」ー「連動なし」ボタン を押し、表示されるダイアログで「UC-Drawへの連動を行う」を選択、確定することで、「UC-Draw」への連動が可能とな ります。

「UC-Draw」では、連動された図面をUC-Drawの豊富な作図・編集・土木専用オプション(帯表、パラメトリックシンボル生成など)コマンドを使用し、効率よく編集することができます。

### Q1-2-9 図面生成の際にエラーコード「0xc0150002」が表示され、図面が生成できない場合がある。

A1-2-9 製品のインストールフォルダ内に「Microsoft Visual C++ 2008 再頒布可能パッケージ」(vcredist\_x86.exe) を保存して いますので、「vcredist\_x86.exe」を実行後、図面生成を行ってください。

### Q1-2-10 DWG・DXF出力した図面の寸法線をAutoCADで編集した際に、寸法値も自動変更されるようにする方法はありませんか?

- A1-2-10 「図面確認-編集-出力-DWG・DXF出力」画面の「設定-寸法線の出力-詳細」ボタンをクリックすることで表示される「寸法線のDXF出力設定」ダイアログボックスで指定してください。
  - ・「寸法が変更されても文字列は固定」を選択した場合
    - 寸法線をAutoCADで編集した際に、寸法値の文字列は変更されません。(寸法値は固定状態)
  - ・「寸法の編集に合わせて寸法値を変更」を選択した場合
  - 寸法線をAutoCADで編集した際に、寸法値の文字列も変更されます。

なお、この設定の場合は、AutoCADで図面を開いた際に寸法線の文字列が自動で変更される場合がありますので、 ご 注意ください。

### Q1-2-11 設定した線属性(線色、線幅)で、図面を印刷する方法はありませんか?

A1-2-11 以下の操作で、設定した線属性(線色、線幅)の図面を印刷することができます。

- ・「図面確認-編集-設定-色設定」画面を開く
- ・「ここで設定した線幅を出力時に使用する」チェックボックスのチェックを外す
- ・「編集色→出力色」ボタンをクリックし出力色を設定する
- ・「確定」ボタンをクリックし「色設定」画面を閉じる
- ・「出力-図面印刷-ドライバ出力」 から印刷する

### Q1-2-12 図面確認画面で背景色を設定する方法はありませんか?

- A1-2-12 以下の操作で、背景色を設定することができます。
  - ・「図面確認-編集-設定-色設定」 画面を開く
  - ・「背景色-背景編集色」の「色」枠内をクリックし「色の設定」 画面を開く
  - ・「基本色」から背景色を設定し「OK」ボタンをクリックする
  - ・「確定」ボタンをクリックし「図面の色設定」画面を閉じる

### Q1-2-13 図面確認画面の引出線編集時に、引出方向を簡単に変更する方法はありませんか?

- A1-2-13 「複数直線引出線」の引出方向を以下の操作で変更することができます。
  - ・「図面確認-編集」画面で「引出編集」 ボタンをクリックする。
  - ・「引出線」要素を選択 (マウス左クリック) し、ポップアップメニューを表示 (マウス右クリック) する。
  - ・ポップアップメニュー内から引出線の引出方向(左側、右側、上側、下側)を選択(マウス左クリック)する。

複数直線引出線を左側へ 複数直線引出線を右側へ 複数直線引出線を上側へ 複数直線引出線を下側へ

### Q1-2-14 生成した図面をPDFファイルに出力することができますか?

- A1-2-14 以下の操作で、PDFファイルへ出力することができます。
  - ・「図面確認-編集-出力-図面印刷-ドライバ出力」 画面を開く
  - ・「プリンタの用紙サイズに縮小/拡大する」チェックボックスにチェックを入れる
  - ・「設定」 画面を開き「プリンター名」 に仮想プリンター (例えば、Microsoft Print to PDF) を選択する
  - ・「用紙サイズ」「用紙の向き」を設定し「OK」ボタンクリックして設定画面を閉じる
  - ・「確定」ボタンクリックで出力を実行する

### 1-3. 他

### Q1-3-1 製品が起動しない。

- A1-3-1 以下の操作により改善したケースがございますので、以下の操作をお試しください。
  - 「UC-Draw Tools Box culvert」の場合
  - ■「DrawBox」フォルダ名をリネーム

製品を終了した状態で下記のフォルダ名「DrawBox」を変更し(例:DrawBox\_Old)、正常に起動するかご確認ください。

※ "UUUUU" の部分は使用中のユーザー名に置き換えてください。 C:\Users\UUUUU\AppData\Local\FORUM 8\DrawBox

C:\Users\UUUUU\AppData\Local\FORUM 8\DrawBox\_Old

### Q1-3-2 製品起動時にエラーメッセージが出て起動しない。

- A1-3-2 以下の操作で改善される場合がございますので、お試し頂けないでしょうか。
  - 1. 製品を閉じる。
  - 製品のインストールフォルダ内の「vcredist\_x86.exe」を実行する。
     ※「vcredist\_x86.exe」とは「Microsoft Visual C++ 2008 再頒布可能パッケージ」です。
     ※「vcredist\_x86.exe」を実行してパッケージのインストールを行ってください。
     2 制ビジョンマンストールを行ってください。
  - 3. 製品が起動するかご確認ください。

### Q1-3-3 「図面生成」から「レイアウト確認・修正」ダイアログが表示されない。

A1-3-3 「レイアウト確認・修正」ダイアログは前回閉じた際の表示位置を保存しています。 マルチモニタからシングルモニタに変更されたとのことで、現在のモニタの範囲外にダイアログが表示されている可能性 があります。

下記の方法で保存されている表示位置を修正してください。

- 「UC-Draw Tools Pile」の場合
- 1.「UC-Drawツールズ(Pile)」を終了
- 2.「エクスプローラ」を起動し以下のフォルダに移動
- C:\Users\UUUU\AppData\Local\FORUM 8\DrawPile\_V120\12300
- ・「UUU」はユーザー名
- ・「12300」は製品バージョン
- 3. 「UCCADLayoutWindow.INI」を「メモ帳」で開く
- Left」の値を 現在のモニタの解像度の範囲内表示に変更。 修正例 Top = 100
  - Left = 100
- 5.「メモ帳」で「ファイルー上書き保存」を選択し閉じる
- 6.「UC-Drawツールズ(Pile)」を起動して「図面生成」-「レイアウト確認・修正」で 「レイアウト確認・修正」ダイアログが表示されるかを確認

### Q1-3-4 2枚の図面を1枚にまとめたい。

- A1-3-4 図面生成時に表示される「レイアウト確認・修正」画面での図形の図面間移動を使用して図形のレイアウトを編集してく ださい。
- Q1-3-5 新規インストールして「レイアウト確認・調整」 画面が表示されない。
- A1-3-5 「条件-図面生成条件」画面で、「レイアウト確認・調整」を「する」に設定してください。

- Q1-3-6 レイアウトの調整をしたい。
- A1-3-6 「条件-図面生成条件」 画面で、「レイアウト確認・調整」 を「する」 に設定してください。
- Q1-3-7 以前登録したレイアウトを使用したい。
- A1-3-7 レイアウト調整画面で、以前登録した「レイアウトデータ名称」を選択して下さい。
- Q1-3-8 レイアウト調整画面でオフセット設定が表示されない。
- A1-3-8 レイアウト調整画面上で、右クリックからポップアップメニューを表示し、「レイアウト情報」にチェックをつけてください。
- Q1-3-9 レイアウト調整画面の「レイアウト情報」画面が表示されない。
- A1-3-9 レイアウト調整画面上で、右クリックからポップアップメニューを表示し、「レイアウト情報」にチェックをつけてください。
- Q1-3-10 「UC-Drawツールズ」で、「CAD統合版」のデータを読込んでも、「UC-Drawツールズ」では何も表示されない。
- A1-3-10 以下の操作を行い「CAD統合版」データを保存したデータを「UC-Drawツールズ」で読込んでください。 ・「擁壁の設計」で「計算確認」を行う。
  - ・「図面作成」ボタンを押下して、図面作成へ移行する
  - ・「図面作成-基本条件」画面を入力済(紫 ⇒ 緑表示) 状態にする。
  - ・「ファイル」メニューから「擁壁の設計」データを保存する。
  - ・保存したデータを「UC-Drawツールズ」で読込む
- Q1-3-11 製品起動時に「アプリケーションを正しく起動できませんでした(0xc0150002)」のエラーが発生する。
- A1-3-11 製品のインストールフォルダ内の「vcredist\_x86.exe」を実行してパッケージのインストールを行って、製品を起動してください。

Q&Aはホームページ(https://www.forum8.co.jp/faq/win/tools-earthqa.htm)にも掲載しております

# UC-Drawツールズ Earth retaining (土留め工) 操作ガイダンス

2024年 4月 第5版

発行元 株式会社フォーラムエイト 〒108-6021 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟21F TEL 03-6894-1888

禁複製

### お問い合わせについて

本製品及び本書について、ご不明な点がございましたら、弊社、「サポート窓口」へ お問い合わせ下さい。 なお、ホームページでは、Q&Aを掲載しております。こちらもご利用下さい。 https://www.forum8.co.jp/faq/qa-index.htm

![](_page_46_Picture_6.jpeg)

UC-Drawツールズ Earth retaining (土留め工) 操作ガイダンス

www.forum8.co.jp